

参考人ら「保険証残せ」「障害者に困難」

健康保険証を廃止してマイナンバーカードの取得を強要するマイナンバー法等改定案は、わずかな審議で衆院を通過し、参院でも强行成立が狙われています。そんな中、法案を推進する自民や維新の議員が現場の実態をほとんど知らないことが露呈しています。制度を「推進した張本人」と自称する自民党議員や元東京都知事の維新議員も驚いた17日の地方創生デジタル特別委員会での参考人質疑をみてみた。

3人の参考人のうち、家平悟さん（障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会事務局長）は「障害者はマイナンバーカードの申請・利用に大きな困難を抱えている」と発言。カードの申請で、顔写真の背後に車いすのヘッドレストが写っていたために却下された事例を挙げました。

「まだ発展途上」

最初の質疑に立った自民党の山田太郎議員。自身が「前のデジタル大臣政務官で、この方面も推進した張本人」と胸を張ります。

その山田議員ですが「そもそも、困難を抱えている方々の（マイナンバーカードの）代理申請のあり方が、全然議論がされておらず、どうすればいいか」と、参考人に質問しました。

家平さんは「（保険証）廃止だけ決めて、通した後で考えるものではないは



山下芳生議員（右）の質問に答える（左から）家平悟、石井夏生利、竹田智雄の各参考人 17日、参院地所・特委

はないか」と直面。「どうしたらアラスに変えていくのか」と『利害』を聞き出そうとします。

全く制度が違う

猪瀬氏は「マイナンバーカードがなくても、保険証の代わりに資格確認書がもらえるんですね」と質問。

竹田智雄さん（全国医療団体連合会副会長）は「資格確認書は申請が必要で、自動的に送られてこない。保険証は自動的に送られてくる。全く制度が違います。医療へのアクセスが途絶えてしまう。保険証を残していくだけませんか」と明快に答えました。

それでも猪瀬氏は「資格確認書を申請すればいいだけでしょう」などと発言し、無理解ぶりを露呈。こんな認識で法案を成立させていいのかが問われます。

法案に肯定的だった参考人の石井夏生利中央大学教授に、日本共産党的山下芳生議員は「弱い立場の人々がより困難になつたり、排除されることが絶対にあってはいけないと考えるが、いかがか」と尋ねました。

石井教授は「本日の話で困ったのは、カード取得が困難な場合は例外を設けるとか、資格確認書の申請主義を改める手当でができるとかといふこと」と答えました。法案の欠陥がますます明らかになりました。

自維議員、現場知らず推進 露呈

マイナ法改定案に欠陥